

(1) 民間の協議組織会議議事録

ア 第一回受け入れ会議議事録

	第一回 受け入れ会議録
日 時	平成 18 年 9 月
場 所	上土幌町山村開発センター第一研修室
出席者 (敬称略)	協議会委員 上土幌町 国土計画協会 ランドブレイン(株)
協議会 次第	開会 1. あいさつ、自己紹介 2. 社会実験の概要説明 3. 実施の流れと役割 4. 受け入れ体制について 5. 現在の受け入れの取り組みについて 6. その他 閉会
資 料	会議次第 資料 1 社会実験の概要説明 資料 2 実施の流れと役割分担 資料 3 受け入れ体制について 資料 4 生活体験モニター資料
開会	
上土幌町	本日は、今年度実施する社会実験の説明、及び現在町で実施している生活体験について説明する。

議事	
町長	本日は社会実験を契機とした今後の取組みについて何点か説明する。現在、国では二地域居住が今後の大きな動きになると考えており、国土交通省では都市住民を農山漁村に誘致することについての研究会を開催している。これまでは国主導で検討してきたものが、地方のあり方からの視点も加えた両面から決めていく方向に変わりつつある。国土形成計画を策定するにあたっての検討課題の中で、多様なライフスタイルのあり方というひとつの柱がある。二地域居住は今後のライフスタイルの柱になると想定されている。 現在全国各地で移住促進の取組みがなされているが、具体的な支援策は未だ示されていない。上士幌としての移住・二地域居住に関する課題は、航空運賃が高すぎることや、移住者用の住宅が不足していること、移住定住の事業の情報発信などが上げられるが、これらの課題について今後議論していくところである。 このような背景のもと、各省庁が移住・二地域居住の事業をはじめている。農林水産省、総務省、国土交通省が既に取り組んでおり、上士幌町としても、昨年度国土交通省から二地域居住促進調査を受け、調査を実施した。 さらに、社会実験の後、来年度には移住・二地域居住の実行段階として、ソフト、ハード両面での展開を検討している。ソフト面としては、現在行政が担っている受け皿を、民間組織に任せたいと思っている。ハードの面としては空き家の確保、使われていない公営の施設を改修して利用、農村地域に 1,000 m² くらいの土地を確保して都市住民に提供する計画、国有地を確保して新たな宅地を整備する、健康な住宅のモデルハウスをつくることなど、多くの選択肢を用意することを検討している。国の支援を受けるために、手を挙げていく。 二地域居住に関しては、上士幌町は全国でトップを走っている。その関係で私も国土形成計画の研究会のメンバーに選ばれている。研究会には国の関係者も多く参加しており、上士幌が優位に事業を進めるために、動きたいと思っている。国土計画協会、ランドブレイン株式会社にも国の事業を探ってもらいながら進めていきたい。 今回の社会実験を契機に、新たな事業をつくりだすことも可能だと思っている。皆様もビジネスチャンスと考えてご協力いただきたい。宜しくお願いする。
国土計画協会	昨年度から上士幌町での定住・二地域居住のお手伝いをさせていただいている。本年度も宜しくお願いする。
ランドブレイン	ランドブレインは、地方への移住・地方振興に取り組んでおり、実際の事業をコーディネートする会社である。具体的な事業を成功させたいので、宜しくお願いする。
ランドブレイン	宜しくお願いする。
上士幌町	これまでも、皆様には何度か移住定住の取組みについて説明してきた。町長から、今後の展望についての説明があったが、移住定住については、今後も継続して取り組んでいく事業である。 昨年皆様に集まってもらった際には、ハード面の整備について協力してもらいたいと考えており、リフォームプロを中心に協力してもらった。しかし、昨年度の調査や本年度事業の検討の中で、ハードだけではなく、ソフト面の取組みについても皆様の協力が必要であるという方向へ展開してきた。特に民間の受け入れ組織の立ち上げを検討したいということ

	から、本年度は皆様と体制整備を考えていきたいので協力をお願いする。 本年度の社会実験は、行政と国土計画協会を中心に実施することになるが、皆様の協力をもらいながら、今後の可能性を検証していきたいと思う。
議事	
ランドブレイン	資料1 社会実験の概要説明 資料2 実施の流れと役割分担 資料3 受け入れ体制について 説明
上士幌町	委員会の参加について、参加費は支払われるのか。
ランドブレイン	委員会への参加費用は、交通費程度を支払う。
委員	受け入れのための組織として NPO 法人があれば、補助金を付け易いということは理解できる。ただし、補助には裏負担が必要になるであろうし、専任職を雇う場合の人件費についてはどのように考えられるか。
ランドブレイン	組織化のための支援もしていきたいと思う。
委員	今日の会議について、昨年度の取組みとのつながりや、コンサルを委託した経緯を説明して欲しい。
上士幌町	昨年度、上士幌町としては、北海道の北の大地への移住促進事業に参加して取り組んできた中で、移住者のモデルハウスなどハードの部分に民間の支援を頂くことを考えてきた。リフォームプロにおいては、このような考えから空家の調査を協力頂き情報を共有してきた経緯がある。ただし、昨年度の都市再生モデル調査として二地域居住促進調査や、農水省の社会実験の計画のなかで、国の事業に乗る為にはハード面だけでなくソフト面での展開も必要であるという観点から、本年度はソフト面での協力もお願いしたいと考えている。特に移住者受け入れのための NPO 法人を立ち上げることにより、国などからの補助が受け易くなるという現状がある。昨年度から、方向をやや転換したが、取組みとしては昨年度の延長上にあることを理解頂きたい。 また、今年度農水省の事業については、実験の報告までを町内だけで実施することには無理があるため、コンサルタントに調査の委託を行っている。昨年度からの経緯もあり国土計画協会に委託した。
上士幌町	本年度の社会実験は、農林水産省から上士幌町が委託されて実施する事業である。ランドブレイン(株)、国土計画協会からの説明は、上士幌町と協議しながら決めてきたものである。
委員	昨年度までは移住定住といていたものが、二地域居住に変化したのは、トーンダウンではないのか。二地域居住は町を別荘地にすることだと思う。
上士幌町	これまでの都会での生活を手放して、上士幌に移住定住するという形は、究極の姿だと思う。それは上士幌の目指す一つの形ではあるが、そこまでは踏み切れない方が多い。そこで、そのような方を後押しする意味で、夏の間だけ上士幌に滞在してもらうなど、これまでの生活を残したまま上士幌でも生活してもらうことを進めようとしている。二地域居住でも地域との結びつきは生まれ、滞在中の経済活動もある。都市から友人や家族などを呼ぶといった、新たな交流も生まれることが想定される。二地域居住にしたのは、トーンダウンではなく、段階的な取組みを行うことを意図している。
委員	今回の社会実験のスケジュールを見ると、受け入れの準備など、日程的に難しいと思うがいかがか。また、NPO は、どのような枠組みになるのか。
ランドブレイン	受け入れの組織化にあたっては、本日お集まりの各団体が組織化して

	NPO 法人になることはイメージしていない。組織の運営のため、実際に活動できる会社をリタイアされた方などの人材が必要であるという問題を認識している。受け入れ組織の役割としては、相談窓口の設置などソフト施策に加え、将来的にはハード整備をも担うことができる組織としての展開を考えている。
ランドブレイン	移住促進を考えるにあたり、まず二地域居住から始めるという方向を考えている。国としても、そのような考えが主流になっているが、成功の鍵は地元の受け入れにある。都会からの来た滞在者が、いかに上士幌町のことを気に入るかが問われる。 受け入れの NPO 法人を立ち上げるにあたっては、今の段階では NPO 法人に参加したことによるメリットは見えにくい。しかし、今後の展開としてハード整備もできる NPO 法人にし、体験用の住宅整備をビジネスとして展開させることは可能であると考えている。国としては、NPO 法人への寄付金、基金を進めていこうという方向があり、それがハード整備の資金になる。NPO 法人に対する様々な補助金が来年度以降もでてくる。ぜひ NPO 法人を立ち上げて事業を進めて欲しい。よろしくご検討頂きたい。
上士幌町	事務局としては、民間の活性化を狙いにしている。 町内的には事業が進んでいるとはいえない状況であるが、全国的に見ても移住・二地域居住の取り組みではトップと考えている。協力をお願いしたい。
上士幌町	(資料 4 生活体験モニター資料説明)
委員	体験モニターの募集は、目的が立っているのか。町単独の事業でも実施しているということだが、居住先が足りなくなることはないのか。
ランドブレイン	体験モニターの募集については、アルプス技研には既に情報提供を行っており、ある程度の感触はある。
上士幌町	住居については、町単独の事業においては教職員住宅を利用しているが、今回の社会実験においては、これに加えアビア航空の社宅を利用する。
委員	協力団体として、多くの団体が挙げられているが、今日出席している団体が少ない。会議の周知方法が悪いのか、団体に熱意がないのか分からないが、事業を進めるにあたっては不安である。 また、移住コンシェルジュの趣旨は分かるが、現実問題として組織化は難しいと思う。
上士幌町	問題は多く、住居の回し方も調整が難しいところはある。社会実験においては、現役世代も体験モニターに参加してもらうことを考えており、糠平のホテル旅館にも協力頂く。 また、会議については皆様に出席して欲しいので、次回には参加してもらえよう呼びかけていく。
上士幌町	今回の社会実験においては、都市側の民間企業にも協力してもらう。アルプス技研、スロータウン連盟とは、既に協力を取り付け、募集について調整している。 社会実験期間は町単独での受け入れをいったん休止して、住居を社会実験用に利用する。 会議については、次回からはもう少し早い段階から周知を徹底していく。また、町の民間協力体制についても再構築させてほしい。受け入れ組織の立ち上げは、今回の社会実験の主な目的でもある。 健康的なモデルハウスについても考えていきたいと思っている。
委員	今日出席している方々を集めても、NPO は組織出来ないと思う。実際の担い手としては動き易い方をお願いし、企業がそれに参画、協力すると

	いう方向になると思う。広報などで、地域住民を募ることも出来ると思う。
委員	現在のようなタイミングでは、はじめに提案したものが、ビジネスにおいても優位に働く。NPO 法人の専門職は商工会の若手でもいいと思う。
国土計画協会	今回の事業は、社会実験なので検証の必要がある。本年度は、来年以降の受け入れ事業化に向けて大事な時期である。国への社会実験の報告として一番インパクトのあることは、受け入れ組織が立ち上がったという部分であると思う。来年度住宅の改修などの補助を受けるにあたっても、組織があると有利であるということがいえる。NPO 法人化に向けて議論して欲しい。
委員	大きな敷地を確保して、体験用住居の整備を町は検討しているらしい。今後、大きなビジネスが生まれる可能性がある時期なので、自分達から提案することにより、有利な状況が生まれる。
国土計画協会	実際に事業が動くのはもう少し先だと思うが、そのような考えはある。今後の展開は確約できないので、当面は組織もボランティア的に活動していかななくてはならないことも考えられる。
委員	組織は、どうしても NPO 法人でなければならないのか。
国土計画協会	補助金を受ける際の、国の評価基準として NPO 法人という形が望ましい。法人格の認可があることで、中央の役人にとっても説明がし易いためにより有利である。
委員	法人格を取るためには登記が必要になるので、組織を簡単に解散することができなくなる。立ち上げることは良いが、実際の運営が難しい。確固たる目的、活動があれば分かり易いが、今回の農水省の社会実験が失敗したら組織が張りぼてになってしまう。もう少し慎重になって、活動内容などをもっと詰めるべきだと思う。様々な状況に対応できるようにしておきたい。
委員	NPO を重く考えすぎである。
上士幌町	NPO 法人化のまえに、上士幌のコンシェルジュとしての組織をどのように作るかを考えることが必要。自分達に何ができるのかを考えて欲しい。皆様に細かく聞き取りをしたい。
委員	今回の社会実験で決める部分と、今後の課題を分けて考えたい。なお、メリットがないと企業は動けない。
国土計画協会	先ほど NPO が立ち上がったときに事業の確約ができないといったが、来年度の新規施策においては、補助メニューが示されていることを付け加えたい。
ランドブレイン	NPO 法人については、立ち上げが目的ではなく、二地域居住を促進することが目的である。そのためにはソフト面の整備は現在進めているところである。今後ハード整備の部分で補助を受けるためには、NPO 法人化が最適である。今年度組織を立ち上げると、来年度の事業につながるというストーリーを理解して欲しい。
閉会	
上士幌町	次回は 11 月上旬を予定している。地元の集まりは今後ある程度の間隔で開催したい。 (閉会)

イ 第二回受け入れ会議議事録

	第二回 上士幌町移住促進協議会
日 時	平成 19 年 1 月
場 所	上士幌町山村開発センター会議室
出席者 (敬称略)	協議会委員 上士幌町 国土計画協会 ランドブレイン(株)
協議会 次第	開会 1. あいさつ 2. 生活体験モニターの進捗状況 3. 協議会規約について 4. 地域の魅力向上のための方策に関する検討 5. 民間サポート組織立ち上げに向けた検討 閉会
資 料	会議次第 資料 1 生活体験モニターの進捗状況 資料 2 協議会規約 資料 3 地域の魅力向上のための方策に関する検討 資料 4 民間サポート組織立ち上げに向けた検討
開会	
上士幌町	第二回移住促進協議会を開催する。
(挨拶)	
町長	第一回協議会開催から時間が経っているので、移住定住の現在の状況について説明する。テレビ番組「人生の楽園」で、糠平へ移住された今野さんが取り上げられたように、全国的にも農村地域への移住定住の関心が高まっている。団塊世代の退職を契機に、都市と農村との交流が活発化することが期待されており、国としてもその方向を目指している。現在、地方は過疎により経済の衰退等が課題になっており、北海道では札幌に一極集中し、帯広ですら過疎化が進んでいる。全国的にみると、東京一極集中の傾向が見られ、国の進む方向としても望ましくない。今後国が目指すべき形は、地域それぞれの役割を明確にして、地方と都市の交流、都市から地方への定住を進めることである。 そのような考えのもと、国土交通省において「地域への人の誘致・移動の促進に関する研究会」が開催され、私も参加している。新年度からは、これまでに実験的に取り組んできた、移住、二地域居住の取組みを、政策的に進めていく段階にある。本町でも全国に先駆けて都市と農村の交流、移住定住、二地域居住に関する取組みをしてきたので、取組みの結果をふまえて、来年度以降実際の事業として着手していきたい。できることから段階的に進めていくことになるが、行政、民間がすべきことに取り組むこととともに、国への訴えも続けていく。

本日の会議ではこれまでの事業の経過を報告し、町の政策としての今後の具体的な事業についても意見を頂いて、来年度の予算編成への反映をしたいと考えている。ハード、ソフト両面の取組みが必要であり、ハードの取組みとしては、都市部からの移住、二地域居住等希望者の住宅、お試し暮らしのための受け皿整備がある。町内には空き家はあるものの、使えるものは少なく、また来訪者にどのようなニーズがあるか知ることが必要である。また、ソフト施策としては長期的に滞在する場合に、来訪者と地域との交流や、上士幌で自分の能力の発揮するための活動、いきがづくりを考えていく必要がある。ハードの面においては、用地の取得を検討しており、町民や農協等との協議のもと、使いにくい農地の確保、苗畑、黒石平の土地の確保、みなみ野団地、体験用住宅の整備など、基盤整備に関して多様なメニューを考えている。

二地域居住については、国を挙げて取り組んでいる。二地域居住促進のために、現在は規模によっては知事や国の許認可が必要な農地の転用について、市町村長への権限委譲の検討もなされている。また、地方交付税が全体として削減されているなかで、本町は増加しているが、今後ががんばっている自治体への交付金は増えていく流れがあり、評価指標の一つとして二地域居住の取組みがある。人を誘致することについては、医療費等の負担が心配されるが、北海道の試算によると、3,000世帯の移住により5,800億の経済効果に対して1,200億の医療費がかかる。また、岩手県では1万人の移住により5,500億の経済効果に対して、医療費が3,300億と試算されている。人が増えることによって、消費も住宅の建設も期待できる。町として手を打っていくことが必要だと考える。

まだ見えにくい所もあるが、行政においても民間においても取り組みは進められている。現在多くの地域で取り組まれているが、移住が成功しているのは一部の事例であり、すぐに移住定住にはつながらない。これまでの調査をふまえ、皆様に一定の理解を得られるところから進めていくことになるが、行政だけでも民間だけでもなく、共に取り組んでいくつもりである。まちを元気にするためにも必要な取り組みであると思うので、様々な意見を頂きたいと思う。

議事2. 生活体験モニターの進捗状況

上士幌町	議事次第に従い進めていく。生活体験モニターの進捗について農林水産省の社会実験及び町単独の事業についてそれぞれ説明する。
ランドブレイン	(社会実験進捗説明)
上士幌町	(町単独事業の進捗説明)
上士幌町	詳細な分析は今後の会議の中で報告する。

議事3. 協議会規約について

上士幌町	役員の選出は、協議会の役割や位置づけを深めてから行う。 (資料2 協議会規約(案)説明) 役場のワンストップ窓口のような実働部隊としての民間組織も必要だが、まずは町全体として議論する場としての協議会が必要であると考えている。
上士幌町	目的に賛同していただける組織には、今後とも参加をお願いしたい。なお、規約の中では細かい部分は決めず、町全体の取組みについて議論してもらうことを目的としている。今後、来訪者の世話をする実働部隊、相談窓口として、民間サポート組織を立ち上げていきたいと思っている。

委員	1月の朝日新聞に移住の話題が出ていた。移住ビジネスが有望だといわれているが、首都圏で40%ある移住意向のなか、実際に移住できるのは3%くらいではないかという分析がある。その理由として、生活の面では奥さんが現在の地域とのつながりを持っていること、男性は退職後も働きたい意向があること、経済的な事情から都会では3世代での生活が増えていることなどが挙げられており、簡単に移住できるわけではないという意見であった。 協議会の目的としては、移住に対して焦点を絞ると窮屈なので、長期滞在についても組み込んで欲しい。会の名称も、「都市農村交流促進協議会」など、より広い目的を持つものが良いと思う。 メンバーに関しては、アーチ橋友の会においても組織の活動と協議会の目的とが直接結びつかない。観光協会に関しては、来訪者が住民になってしまうと、客ではなくなってしまうように、各組織の目的と協議会とのギャップを感じる。長期滞在を含む、広い目的のもとに活動するのであれば、アーチ橋友の会としても活動の意義が見出せる。
上士幌町	「移住促進協議会」という名称を今回付けたが、完全な移住から、二地域居住やお試し暮らし、ショートステイなども含めた多様な交流の形をターゲットとしている。名称は、交流を広くイメージできるものに変更することが出来ると思う。
上士幌町	協議会の目的、内容としては、観光振興含め様々な活動がつながっていくと思う。まちづくりという視点からは、皆さんの組織との関わりはあると考えている。
ランドブレイン	まちづくりを進める上で、多様な団体が集まって何とかしようという方向については、皆さん一致していると思う。協議会の規約としては、大きな概念でくくらないと目的が細分化されてしまうために、本日提示したものとなっている。名称、目的も意見をふまえて、幅広く位置づける余地はあると思う。各組織において参加する動機付けがあるかどうか、意見交換頂きたい。
委員	そもそもこの事業の必要性に疑問がある。移住・二地域居住者増加のメリットは消費、住宅購買、税収等であるが、それに対して将来的な介護負担がデメリットになる。 北海道は年寄りが生活するにはきつく、十勝は特につらいと思う。年寄りには便利で温暖な地域、例えば静岡が良い。北海道は、事業意欲を持つやる気のある人が夢を持って来る場所だと思う。 移住者については、移住したからには町内会も手伝ってもらおう。糠平に別荘を持つ人はいるが、オブザーバーに過ぎず、地域住民とは別の立場にある。移住は相手の人生の一部を受け入れることなので、もっとどろどろしたものであり、貧乏な若者を応援するようなイメージがある。
委員	都市と農村の交流という観点からは、本州からの子供達を受け入れる大地の学校があり、主宰する森田さんは交流のノウハウを持っている。協議会に参加してもらおうことも考えたい。 具体的な活動にあたっては、このように現在実際に活動している人を使っても良いと思う。

上士幌町	移住、二地域居住の取り組みに関しては、団塊の世代の話題が先行しているが、町としてはターゲットを絞っているわけではない。現在もワンストップ窓口には様々な世代からの問い合わせが寄せられおり、今後もその多様性は変わらないと思う。2007年問題についての話題が多く、団塊の世代が注目されており、一つの波としてその影響はあると思うが、実際にどの程度なのかは分からない。 メンバーについても、様々な団体から幅広く意見を聞きたいという趣旨からすると、大地の学校の森田さんや、既移住者、二地域居住者に協議会のメンバーに入ってもらうことも考えたい。
委員	団塊の世代をターゲットに考えているわりには、協議会のメンバーの年齢がずれているように思う。
上士幌町	生活体験に来ている方々の年齢は、60歳くらいを中心に様々である。年齢制限があるわけではない。 生活体験のきっかけや、移住に対する意向の熟度は様々だが、第二の人生として拠点を設けたいという意思の方が多く、完全な移住は今のところいない。家を新たにたてて財産を持つことでなく、夏の間だけ10年くらい滞在することを希望している方が多い。
上士幌町	現役世代が生活体験に来るのは難しい状況である。社会実験においてはアルプス技研からは現役世代のうち、退職が近い方を優先的に募集しており、一方パルアクティブからは退職後の方が多。町の単独事業では団塊世代は一組であり、これからのターゲットとしてはいるが、団塊世代だけにこだわりはしない。 体験者は皆さん元気で、年末に来てスキーをして帰っていった方もいる。来訪者がしばらく上士幌に住んでも、ここで一生過ごすかどうかは分からない。年寄りを呼ぶことについて懸念される意見も理解しているが、仕事の関係から若者を誘致することは難しい。札幌周辺であれば仕事があるため若い人も多いが、道東を選ぶ方は主に年をとった方である。仕事を気にせず、老後をゆっくり暮らしたいという方からの応募が多い。
委員	協議会は、目的を明確にし、諸団体にとってのメリット、デメリットを整理したうえで発足させるべき。協議会をつくることについては、一昨年から商工会のなかで検討してきた話なので反対はしないが、これまでの2年間の取り組みについて各団体がどのような意向を持っているのかを役場で取りまとめ、各団体の参加メリットをある程度明確にしてほしい。 協議会の参加者は、組織図の中にある組織に重複して属している方が多い。整理しないと、複数団体分の負担金をまかなうことにもなってしまう。
上士幌町	負担金の件については、整理する。
委員	活動が間延びして意欲がなくなり始めている。組織にとって大義名分がなければ協議会に参加することはできない。
委員	ゴールが見えない。役員の任期はあるので町としては考えているのかもしれないが。 会の内容を、各団体の中で伝えることができるように、整理して欲しい。
上士幌町	これまで、様々な枠組みでの会議が開催されてきたことから、取組みが混乱しているように思う。北海道においては北の大地への移住促進事業、生活体験モニター、北海道コンシェルジュの事業に取り組んできたが、今年度を持って一応は終了する。これまで試験的にやってきたことが事業として継続するかは分からないが、移住者等の相談、受け入れについては、窓口はひとつだが今後も様々なルートから来ると考える。現在も北海道移住促進協議会や北海道コンシェルジュ経由での連絡も受けている。

委員	ショートステイには意味を感じていない。一方でロングステイや定住には意義を感じる。移住を決意するには、ハードがあってこそだと思うので、町としても思い切った事業が必要だと思う。起爆剤がないと今の状況から進展しない。
上士幌町	生活体験のモデルハウスを建てるなどの考えはあるが、現実的にそこまでは進んでいない。今後、協議会のなかで意見を頂きながら進めていきたいと思うが、今の段階で約束はできない。
委員	大胆に進めて欲しい。人を誘致するにしても住居がなければ生活ができない。ホテルでの生活で、町に住みたいという気持ちが生まれるのか疑問である。また、体験用として教員住宅等使用しているが、農村風景の中、広い土地の区画のなかで生活してもらうことが必要だと思う。先行投資としてはじめなければ、移住定住にはつながらないと思う。農村地帯の離農されたところをモデルとした、住居のイメージを見せて提案することなども必要だと思う。
ランドブレイン	そのような生活イメージについての情報提供は必要だと思う。 また、移住者の数には限りがあるが、もっと広げて交流と考えた場合には活性化は継続的する。来訪者と地域とを結びつけるためのステージを用意し、どうすればリピーターになってくれるかを考えることが重要だと思う。そのための議論を協議会でしていただきたい。
委員	2～3ヶ月滞在してみたいという人へどのように情報を発信するか、どのように上士幌での生活の楽しさを伝えるかが重要だと思う。
委員	住居がないと生活はできない。先日移住された方も、安井測量の物件を気に入って移り住んでくれた。教員住宅で生活してもらっても、移住や二地域居住につながるとは思えない。
委員	町内でも、民間の農場においては自前で人材を募集し、居住施設を建てて人を誘致している。今回提示された規約は、官主導型の雰囲気を感じる。個々人の意識から始めることが必要だと思うが、今回の事業にその意識が感じられない。 町として補助金を受けるための必要性から我々が集められている気がする。各組織がどのような意識で取り組んでいけるのかを、取りまとめる必要がある。各組織の意識が整理されないと、事業は進まないと思う。ここに来ている事業者のメリットがあれば必死に取り組むと思うので、今後のことも考えて一度立ち返ることが必要である。
委員	各団体にアンケートをかけるなど、方法はあると思う。 これまでは、計画を作っても事業は実現してこなかった。
ランドブレイン	国の補助事業は毎年変化する。これまでは国が決めていたことを、これからは交付金として地方公共団体が使い方を決める方法に変わった。皆様がまちをどのようにしていきたいのかを、個別の事業ではなく、大きなビジョンのもと総合的に取り組むことが重要。 一番大事なのは、町に来た人に満足してもらうことだと思うので、そのための取組みを考えることだと思う。
委員	事業が始まって3年経つが、これまでの結果が示されていない。結果をふまえて、人を集めるための方法を検討する必要がある。

委員	定住の場合には地域住民との交流があるが、短期滞在の場合には自分の住環境に関心が向くため、住居周辺の不便さ等は気にするが、都会での普段の生活と変わらないような生活になってしまっていると思う。上士幌の魅力は春夏秋冬の移り変わりだと思うので、農地付き体験ハウスのような施設を整備して、街中ではなく雄大な農村風景の中に身を置いてもらうことが必要だと思う。他の地方には無い特徴は、十勝の乾いた空気と、四季のダイナミックな移り変わりであり、それを体感することで定住につながる。 自分も腰掛のつもりで上士幌に来たものの、上士幌の魅力を知って離れられなくなった。一年の四季の移り変わりの体験により定住へと進む、それが地域のモデルになると思う。
委員	これまで移住された人は、農村地区に住んでいる方が多い。商工会で意向の把握を行った際には、公営住宅のような住居ではなく、山や川が見えるところに住みたいという意見が多かった。
上士幌町	町長が挨拶のなかで、苗畑、黒石平の土地確保を目指していることを述べたように町としてもハードの整備については検討している。今後開発の内容や事業のメリットについて検討し、町民に説明していく。 このような具体的な議論についても、役場だけではなく協議会での議論も頂きながら検討し、また、町全体のまちづくりの提言についての検討も頂きながら進めていきたい。
上士幌町	先が見えていないという意見は理解するが、事業を進めながら本年度ようやく実際に人を受け入れるところまで来た。これまでの受け入れによって問題点も見えているので、具体的な事業についても、できるところから実現化の段階に移りたいと思っている。 協議会では、まちづくり全体についての議論を、テーマに沿って協議してもらいたい。今後は具体的な事業についての議論も始まると思う。 後日個別に説明し、意見交換させていただく中で、各組織としての規約への賛同については最終的に判断して欲しい。
委員	移住受け入れは、これまで経験していない取り組みである。そのためにとっかかり、活動のイメージがつかめないのだと思う。ただ、都市と農村の交流に関しては、これまでにNPOの活動の中で実施してきたことである。それらをベースにしてもらえば良いと思う。
上士幌町	規約の内容及び名称等は事務局で検討させていただく。検討をふまえ、後日個別に相談させてもらう。
議事４．地域の魅力向上のための方策に関する検討	
ランドブレイン	(資料３、他地域の事例説明)
上士幌町	(資料３、不正形等農地活用推進事業説明)
議事５．民間サポート組織立ち上げに向けた検討	
上士幌町	他地域の事例として、参考までに読んで欲しい。質問は後日伺う。
閉会	
上士幌町	各組織を個別に伺う他、２月にもう一度会議を開催する予定である。 (閉会)

ウ 第三回受け入れ会議議事録

	第三回 受け入れ会議録
日 時	平成 19 年 3 月
場 所	上士幌町山村開発センター第 2 研修室
出席者 (敬称略)	協議会委員 上士幌町
協議会 次第	開会 1. あいさつ、自己紹介 2. 社会実験の概要説明 3. 実施の流れと役割 4. 受け入れ体制について 5. 現在の受け入れの取り組みについて 6. その他 閉会
1. あいさつ	
町長	協議会設立は、町の活力になる。移住事業に伴う公営住宅の改修も可能となった。西団地改修調査を行いたい。会議を重ね、互いに情報交換を行っていきたい。
2. 組織名称及び組織規約について	
	■組織名称、組織規約の確認 ■促進する会設立日は、商工会理事会の報告をまって、3月10日以降にしたい。
3. 役員の選出について	
	■会 長→上士幌町商工会 - 副 会 長→上士幌町建設業協会 - 会計監査→上士幌町農業協同組合 ■商工会は、3月8日の理事会をもって、農協においても内部協議後報告する。 ■規約名簿上は、各団体の代表者名とするが、代理出席を可能とする。会議に参加する方を少なくとも一人は決めてもらい、常に会議に参加できるようにする。
4. その他	
	・平成18年度生活体験事業の結果（資料3） ・平成19年度の活動について（資料4）

(2) 実施委員会議事録

ア 第一回実施委員会議事録

	第一回 実施委員会
日 時	平成 18 年 10 月
場 所	上土幌町山村開発センター第二研修室
出席者 (敬称略)	協議会委員 送り出し協力団体 (株)アルプス技研総務部、スロータウン連盟、(株)パルアクティブ) 上土幌町 ランドブレイン(株)
協議会 次第	開会 1. 自己紹介 2. 社会実験の概要 3. 進捗状況について 閉会
資 料	会議次第 資料 社会実験の概要
開会	
上土幌町	本日は、今年度実施する社会実験の第一回実施委員会を開催させていただく。
(挨拶)	
上土幌町	第一回の実施委員会に集まりいただきありがとうございました。 今回の実施委員会については、受け入れ側と送り出し側の体制を整理することを目的に開催した。 社会実験をとおして、二地域居住の定着に向けて取り組んでいきたい。
事務局紹介	(自己紹介)
受け入れ側 委員紹介	(自己紹介)
都市側協力 団体紹介	(自己紹介)
議事	
ランドブレイン	(社会実験概要説明)
上土幌町	現在は町のワンストップ窓口を、将来的には民間のコンシェルジュを立ち上げていきたい。将来像については、先日お集まりいただいた際に了解いただいたところである。
都市側協力 団体	将来像の中で、都市側の位置づけはどこになるのか。
上土幌町	将来的にも、都市側の協力団体に入っていただくことになる。個人からの問い合わせと、組織団体からの受け入れの両面から進めていきたい。
上土幌町	コンシェルジュを担う人、経費が課題になる。町としても支援しながら立ち上げを図りたい。社会実験を通じて、人的資源の発掘をしていきたいと思っている。今の段階では人が見つからない。協議会のなかから協力者も探していきたい。

進捗状況	
上士幌町	(説明) 既に受け入れの段階にはいっている。今月の 20 日から、アルプス技研より 6 名の参加が決まっている。パルアクティブの会員にも応募チラシを配布しており、既に問い合わせが入っている。
上士幌町	社会実験では 15 組 30 名は受け入れる。町独自の受け入れも継続しており、社会実験に参加できなかった方についても、まち単独で受け入れていくつもりである。
委員	自分が移住した経緯から考えると、参加する方のニーズに対して、町の資源についての細かい説明を与える仕組みをつくるべきである。まちの情報をとりまとめ、受け入れ体制、地域社会がどのように対応していくのかを煮詰めていただきたい。それにより今後の展望が見えてくる。
上士幌町	町単独で受け入れているなかで、試行錯誤をくりかえしている。想定していなかった反応もあった。 ある程度の町の情報は用意しているが、それ以上に必要な情報、ニーズは出てくる。現在は実績を蓄積している最中である。参加者が来る前に情報交換ができるような仕組みをつくっていききたい。 そのような機能も今後はコンシェルジュが担っていく。
委員	定住する場合、半年間の滞在の場合など、来る人の状況によってもメニューを変えながら、さらに豊富にそろえていく必要がある。季節ごとのメニューや人の紹介までができるように、情報を整理しておく必要がある。
ランドブレイン	予測しないことが起こることがある。 なお、事前にアンケートを配っており、ニーズを把握をしながらプログラムを組み立てていく。また、事後のアンケートによって足りなかった部分を窓口でフォローしようと考えている。
上士幌町	那須さんがおっしゃったことを、社会実験でやろうとしている。モデルハウスの整備など、事業実施に向けて動いているところもある。全て同時に進めている。 上士幌のモデルを国にアピールしているところである。
委員	現に移住されている方に聞くと、公営住宅ではなくて、農村地帯など風景のよいところに住みたいというニーズはある。
委員	この場所が良いとなると、農地法の問題もあるので、調整が必要な場合もある。方法を煮詰めることが必要。
ランドブレイン	町長も含めて、住居については検討中である。次の段階をふまえて上士幌町にしかないものをつくりだしていきたい。
委員	スキーもゴルフも 15 分で行くことができる環境が、町にはある。ただ、都会から来ても、公営住宅に入るには保証人が要るなどの問題もある。
委員	都市部の希望も多種多様であり、それを受け入れることを検討することにもなるので、ニーズも知りたい。それを見て対応したい。
都市側協力団体	移住の要望として取り上げたことはないが、会員には潜在的にそのようなニーズはあると思う。また、今回の社会実験をきっかけに掘り出せるかもしれない。
閉会	
上士幌町	このような会議をもう一度開催する。協議会は数回予定しているので、協力をお願いします。 (閉会)

イ 第二回実施委員会議事録

	第二回 実施委員会
日 時	平成 19 年 3 月
場 所	上士幌町山村開発センター第二研修室
出席者 (敬称略)	上士幌町交流と居住を促進する会 送り出し協力団体 (株)アルプス技研総務部、スロータウン連盟) 国土交通省 上士幌町 国土計画協会 ランドブレイン(株)
協議会 次第	開会 1. あいさつ 2. 社会実験の結果概要 3. 今後の取り組みについて 閉会
資 料	会議次第 資料 1 上士幌町報告書要約編 資料 2 社会実験結果 資料 3 今後の展開
開会	
上士幌町	都市と農山漁村の共生・対流システムモデル調査、上士幌町における二地域居住定着に向けた社会実験の第二回実施委員会を開催する。
(挨拶)	
上士幌町	農林水産省より委託を受けて実施した社会実験の第 2 回実施委員会として、本日は結果報告を行う。なお、本年度の社会実験の結果をふまえ、今後とも受け入れ、送り出しの体制整備、都市農村の交流事業を継続していく。 本日はランドブレインからの社会実験の報告の他、今後の展望について国土交通省、ランドブレインより情報提供をお願いしている。 また、本日議会で移住関係の予算が承認された。新年度、「上士幌町交流と居住を促進する会」の皆様とともに、本格的に事業を進めていきたい。
上士幌町	(参加者紹介)
議事	
ランドブレイン	(社会実験結果概要報告)
上士幌町	今後の展開として、都市側の協力団体との連携を継続したいと考えているが、アルプス技研、スロータウン連盟から、今年実際に進めてもらった事業の効果や感想、改善点等の意見を聞きたい。
アルプス技研	本年度は、上士幌町との連携の機会を設けてもらい感謝している。 当社は平均年齢が低く、高い年代の参加者を十分に集めることができるか不安はあった。当初の想定よりは少なかったものの、結果としては 5 組 10 名の参加があり、成果はあったと思っている。 近年は、当社の共済会としての福利厚生施策が減少している中、今回の事業に対する社員の関心は非常に高く、反響は多かった。ただ、時期的

	な問題、周知の時間不足もあり、なかなか参加申込は多くなかったため、今後は情報提供などさらに工夫して、参加者を募っていききたいと思う。 参加者の意見を聞くと、観光だけではない生活体験として、様々なメニューを体験し感激したとの声を聞いている。移住や二地域居住は直近の問題として考えるには至っていない方が大半であるが、満足度は高いと聞いている。 会社としても、企業 CSR として、NPO 法人ふれあい自然塾に法人会員として加盟し、バックアップをしている。今後は、本事業に NPO 法人からも積極的に参加していきたい。 課題としては、長期休暇の取得、情報提供があげられる。今回とは違ったシーズンに企画できれば、参加者は増えると思う。今後とも会社をあげて取り組んでいきたい。
スロータウン連盟	スロータウン連盟は、全国の市町村により組織した任意団体であり、上士幌町にも会員になっていただいている。上士幌町から今回の社会実験についての相談を受け、団塊の世代をターゲットにしているとのことから、いくつかの団体へ打診したところ、パルアクティブというリゾートクラブが引き受けてくれた。 パルアクティブは首都圏、関西圏中心に約 1 万人の会員を持つ会員制リゾートクラブであり、会員の多くを占める都市部の富裕層、アクティブシニアは、今回の社会実験のターゲットと一致している。会員全員へのチラシ、会報での情報提供に対し、結果的に参加者数の多少についての評価はしかねるが、時期的な問題を考えると春夏の良い季節にはより効率的に募集できると思う。パルアクティブとしても、継続的な取り組み意向があるようなので、この関係を継続して欲しい。さらに、スロータウン連盟からも、新たに都市側の団体を紹介していきたいと思う。
上士幌町	窓口で対応するなかでも、パルアクティブからの問い合わせは実績以上に多かった。初めての来訪が冬というのは、体験者としては不安を感じるとの意見があった。また、課題としては、事前の情報提供の不足があげられる。窓口からチラシやホームページでの情報提供を実施したが、今後は、よりきめ細かく上士幌の四季折々の情報提供などができればと思う。
上士幌町	移住・二地域居住事業の経済効果が、議会でも話題になっている。今回の社会実験では経済効果よりも、受け入れ及び送り出し双方のシステムの問題に重点が置かれており、今回の体験者数だけでは経済効果の試算は難しいと思うが、考えがあれば聞きたい。 受け入れ施設の整備について、ホテルの利用、教員住宅を利用してきたが、町としても受け入れ施設として、健康を切り口にしたモデルハウスの整備など、国の制度を利用して整備検討していく。上士幌町交流と居住を促進する会と連携した、新たなビジネスについても考えたい。
ランドブレイン	今回の社会実験における経済効果を出すことは、今回得られたデータだけでは難しいが、結果としては一人当たり平均約 12 万円を消費した。長期滞在の方は一月当たり食費 6 万、その他お土産遊興費など 8 万くらいの消費があった。 集客についても、今回の社会実験では 15 組、町単独の受け入れでは 8 組の集客があった。今回の事業における季節的な問題や、周知の期間の短さを考慮すると、今後事業を継続して年間を通した受け入れを実施することにより、今回の参加者のリピーターも含め、より多くの集客が見込める。
上士幌町	経済効果については、不透明な部分もあるが、体験者のデータを蓄積させ、今後とも検討していきたい。 国土交通省より国の中央の動向について伺う。

国土交通省観光地域振興課で地域の支援をしている。自分自身は地域を元気にするためのまちづくりに興味がある。以前からまちづくりに関して、観光という視点が重要になると考えてきた。地域それぞれが活性化することにより、日本全体が活性化するとの思いで取り組んでいる。

現在国では上士幌町の取組みに注目している。国土交通省では、観光という視点だけではなく、まちづくりの取組みとしても感心を持っている。また、農林水産省、経済産業省においても上士幌町の取組みには関心を持っている。多くの方面から、これからの地域活性化のモデルになると考えられている。

昨今日本全体が人口減少しており、特に地方の人口減少は著しい。2050年には30%も減ると言われている。人口減少は、地域の経済活動の縮小につながる。経済産業省での試算では、地方では2030年には地域経済の規模が、現在と比べて3割減になると考えられている。そのような予測のなかで、今後地域を元気にする方法として、一つは観光により交流人口を増やすこと、もうひとつが移住を促進することである。移住の取組みについては、800万人規模の団塊世代が退職するというタイミングでもある。団塊世代の意向として、退職後は自分のゆかりのある地域、旅行で行ったことがある地域、あるいは良いところがあれば移り住みたい方が3割程度はあるとされる。金も時間もある人が、住む場所に縛られずに移動をはじめるといふ動きが期待できる。彼らを受け入れたいと、数多くの地域が表明しているが、その中でも先進的に取り組んでいる町として上士幌は見られてる。現在、竹中町長には国土交通省で実施している「地域への人の誘致・移動の促進に関する研究会」の委員にとして参加してもらい、町の取組みを国に紹介してもらっている。

また、農林水産省でも、農村部の活性化のために、団塊世代の移住者150万人、二地域居住者300万人を目標に取り組んでいる。そのために新たな法律を作成し、予算を確保している。上士幌の現在の取組みは、法律をつくるにあたっては一つのモデルとして考えたとの声を農林水産省から聞いている。今回計上した予算についても、上士幌の取組みを一つのモデルとして考えたものであることから、上士幌で今後事業を進めるにあたっては、農林水産省としても上士幌からの提案を期待している。新たな法案は5月には国会を通過し、7月頃には全国からの提案を受けることになる。ぜひ提案して欲しいと思う。上士幌が移住や二地域居住を進めるにあたって、糠平温泉を含めた町全体の活性化、健康に優しい住宅や食品などの新たなビジネスなど、今後のビジョンをつくり、提案して欲しいと言われている。国としては上士幌の取組みは、戦略性を持ったモデルとして考えている。

さらに、経済産業省でもイムノリゾート構想をもとに、地域の新たなビジネス創出について、様々な支援が考えられている。

上士幌の現在の取組みは、環境・健康・持続可能な社会を目指すという意味で、最近流行りの「ロハス」の考え方に一致する。人口減少の中で空き家も増え、今後は集落が消滅することも考えられる。上士幌での取組みについては、そのような問題に対する先見性を感じる。また、豊かな自然や花粉が無いなど地域の魅力を活かした取組みであり、地に足が付いた無理のない取組みである点も評価できる。さらに、地域にリーダーがいること、地元の民間の方が取組みを推進していることも、良い取組みであるに見える。花粉の関係では北大の西村先生など外部の方、今回連携した東京の企業の協力があるということも、地域に魅力がある、熱意がある、構想が素晴らしいことの表れである。取組みを成功させるための必要な要

	素がそろっていると思う。 経済効果の話もあったが、今後さまざまな点で効果が出てくると思う。健康・環境に重きを置いていることから、体験住宅をつくるにあたって、700～500 万円くらいの低コストで、身体に優しい住居を開発することができれば、都会の人々で買いたいという方はいると思う。今回の調査をふまえて、どの程度のコストであれば、ニーズはあるかを検証して欲しい。他にも、健康に優しいというキーワードのもとに、地場産品や温泉を利用するなど、地域にお金が落ちる仕組みができることが望ましい。PR としても、口コミで上士幌を周知することによる効果は大きく、シックハウスなど都会での関心の高い問題については可能性が高いと思う。新しいビジネスにつながるような取組みを、今後の地域経済が縮小するなかで実現して欲しい。 国としては、上士幌に対してこのように熱い視線を向けている。町が実際に提案に動いてもらえば、国土交通省や農林水産省としても支援したいと思っている。そこで重要なのは、地元の民間の動きだと思う。ビジネスとしてつなげていくためには、行政だけでなく、住民や企業の方の役割分担が必要。「交流と居住を促進する会」は、地域を代表するような方が参加されているので、しっかりした広がりのある体制ができているので期待している。 良い提案を出して欲しい。
上士幌町	広い視野からの話だったが、具体的なビジネスにつながることにについてランドブレイン吉武さんより伺う。
ランドブレイン	調査の成果として、体験者からは又来たい、今後この地に住みたいという方も出ており、良い方向にあると思う。ただし、地元がまだ懐疑的であるように見える。いくら調査をしても取り組みは前に進まないと思うので、まずは実際に住居を整備してその効果を見ることが必要な段階だと思う。19 年度中に 1 棟でも 2 棟でも体験用の住居を建てたいという思いでいる。中央省庁での評価も得ており、都市部からの人材の送り込みも体制が整っている時に、地元が手をこまねいていても良いのか。シックハウスに対応した住居など、外から来た方が本当に住んでみたいというものを作り、目に見えるかたちでその効果を確かめて欲しいと思う。外部の人間がそのように思っているのに、地元が熱意をかきたてない訳にはいかないと思う。
上士幌町	全体通してなにか、質問等あればお願いします。
(一同)	特に無し
閉会	
上士幌町	第二回実施委員会を閉会する (閉会)

(3) モニター募集用資料

ア 周知用チラシ（パルアクティブ用）

農林水産省（都市と農山漁村の新たな共生・対流システムモデル調査）
㈱パルアクティブと北海道上士幌町が連携

生活体験モニターの参加者を募集します

都会から離れて、ゆっくりと暮らしたい。
移住を考えているけど、いきなり移住するのは不安だ。
完全移住まではできないけど、長期間滞在できる場所があるといい。
というみなさん、北海道上士幌町で生活体験してみませんか？

実施概要

本年度、国からの委託を受け、㈱パルアクティブと上士幌町が連携して、都市住民による上士幌町での生活体験モニターを実施します。上士幌町では生活体験のための住居（必要最低限の生活備品付き）を用意し、会員の皆様の中から、将来北海道への移住に興味がある方を対象に生活体験者を受け入れます。

将来の移住に向けた第一歩として、ぜひ活用してください。

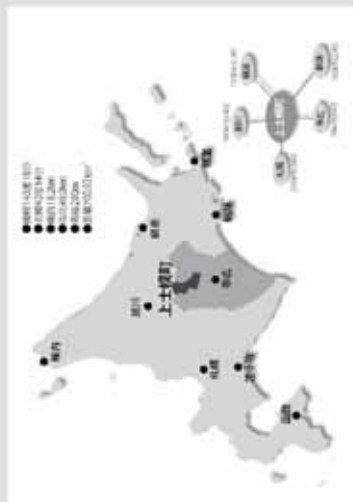
- ・平成18年10月から平成19年2月末の期間の受け入れです。
- ・3泊4日から3週間程度の滞在を想定します
※特に決まった日程はありませんので、ご自由に滞在期間を設定下さい。ただし、受け入れ側の都合により日程を変更していただく場合があります。（先着順）
※事前アンケートや申込用紙により審査します。
- ・滞在にかかる費用は、国から一部補助します。

上士幌町はどんな町？

北海道十勝管内北側に位置する上士幌町は、日本最大の国立公園である「大雪山国立公園」の東山麓に位置し、畑作と観光が中心の町です。

町の約76%が山林で、大雪山系の山並み、摩平(ぬかびら)や標加などの温泉や日本最大の公共育成牧場である「ナイタイ高原牧場」の地、スキー場、ゴルフ場があり、ハルーンフェスティバルを行う熱気球の町でもあります。

また、北海道遺産に選定された旧国鉄上士幌線アーチ橋梁群は、近年、道内外から多くの観光客が訪れ、豊富な地域資源の一つとなっています。



ナイタイ高原牧場



ハルーンフェスティバル



旧国鉄上士幌線アーチ橋

●温泉・環境・観光をキーワードにした「イムノリゾート（泉邸保養地）上士幌構想」のもと、町全体の豊富な地域資源を活かした「健康と癒し」の観光プログラムを開発するとともに、その効果を科学的に検証しながら、各々の地域資源について付加価値を高め、都市と農村の共生と対流による地域活性化を図っています。平成17年3月には「スカイホトリート（通称する）ツアー・モニターツアー」を実施しました。

●さんぽ滞在場所を用意しています。

～住宅かホテル旅館のいずれかをお選び下さい～

●住居に滞在

○町内市街地及び農村地区の教職員住宅等からお選び頂けます。

※バス、トイレ付き（水洗あるいは簡易水洗）

○上士幌町が用意する生活用品

テレビ、布団、冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、食器類、ガス台、ストーブ（冬期）、カーテン、テーブル（インターネット接続、電話はありませんので、体験者ご自身の携帯電話等をご用意ください。）

○家賃は一組1ヶ月35,000円から45,000円（光熱水費含む）程度を予定しています。

滞在日数に応じて日割り計算します。

●ホテルや旅館、ペンションに滞在

○市街地及び摩平温泉のホテル・旅館・ペンションからお選び頂けます。

○料金は一人1泊2日、3,800～12,000円を予定しています。

○滞在に予定しているホテル・旅館・ペンションは下記の4館です。

- さかた旅館（上士幌市街地） □ 摩平館観光ホテル（摩平温泉街）
URL: <http://www8.ocn.ne.jp/~sakata> URL: <http://www10.ocn.ne.jp/~moku>
- 富士見観光ホテル中村屋（摩平温泉街） □ ペンション森のふくろう（摩平温泉街）
URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~fujimi/> URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~mlkuraou/>

※家賃、宿泊料金を一部補助します。（一組あたり上限2万円、半額を補助します）

●こんな体験ができます

上士幌町には大自然や広大な風景の中での、のんびりとした健康的な生活があります。また、以下のような体験メニューが用意されていますので、ご希望にあわせて各種体験ができます。

メニュー例

ワカサギ釣り体験	＜参加費＞ 大人3,150円、小学生1,500円（税込） （釣り具一式レンタル料、ガイド料込み）	1月予定 AM9～12
ネイチャースキー	歩くスキーを使って森の中を散歩しましょう！参加費/大人¥2,600 小学生/¥2,000（税込）（歩きスキーレンタル料込み）	12月下旬～3月下旬 AM9～12
航空知識学習及び ヘリコプター体験操縦	上士幌町での移住生活体験期間中に、生活学習として航空知識を学び、ヘリコプター体験操縦まで行うことができます体験メニューです。 講義 合計12時間、乗機 合計1時間（30分間 2機） 講義受講（教材資料を含む）45,000円（消費税込） 体験操縦料 55,000円（消費税込） 合計 100,000円（消費税込）	4週間以降から 体験操縦まで
温泉めぐり	摩平温泉や標加温泉で温泉100%かけながしの温泉が楽しめます。 日帰り入浴500円～700円 湯めぐり手形（摩平温泉街の3軒の 湯のお湯を楽しめる）1,200円	通年

※上記の体験料金は、通常料金です。今回の社会実験にあたっては体験料金を要する可能性がありません。

●移動手段について

○上士幌町までは、飛行機、フェリーなど、ご自分で手配して頂きます。

※上士幌町までの交通費を、一組あたり4万円補助します。（1名で参加の場合は2万円）

○町内のレンタカー業者を低料金で利用できます。

【利用料金】

- ・バンタイプ
月借り 月¥40,000円（税別） 日借り 1日 2,000円（税別）
- ・普通車用タイプ
月借り 月¥ 55,000円から60,000円程度（要相談）

※レンタカー利用の際には、補助があります

（一組あたり上限1万円で、半額を補助します）

●参加条件

- 1 将来、北海道への移住や二地域居住をお考えの道外在住の方。
- 2 簡単な日記の記入、アンケート調査、マスコミ取材等にご協力いただける方。
- 3 ホームページへの日記及び写真掲載、調査データ等の活用に対する承諾をいただける方。

●申し込み先

株式会社アークティブ（担当者：杉山）

後日詳細な資料、申し込み書類を郵送します。

電話：03-5339-3660

E-mail: sugiyama@palactive.co.jp

●問合せ先

上士幌町 移住相談ワンストップ窓口

担当者：北海道上士幌町役場企画課（担当：須田 孝/深瀬一輝）

所在地：〒080-1408 北海道河東郡上士幌町上士幌東3番地238番地

電話：01564-2111（内線265、261）FAX：01564-2-4637

E-mail: kikakuka@town.kamishihoro.hokkaido.jp

イ 社会実験詳細資料（アルプス技研用）

都市と農山漁村の共生・対流を進めるための生活体験ツアー

アルプス技研グループ共済会と上士幌町が連携して、上士幌町における生活体験ツアーを実施します。

生活体験ツアーの参加者を募集します

都会から離れて、ゆったりとしたところに暮らしてみませんか？
～北海道上士幌町での生活体験ツアーの参加者を募集します～

- 都会から離れて、ゆっくりと暮らしたい。
 - 移住を考えているけど、いきなり移住するのは不安だ。
 - 完全移住まではできないけど、長期間滞在できる場所があるといい。
- というみなさん、北海道上士幌町で生活体験してみませんか？

移住や二地域居住※を一気に決断するには、不安なことが多すぎると思います。
生活体験をしているうちに、上士幌町のことがだんだんとわかってくると思います。
まずは、生活体験をしてみませんか？

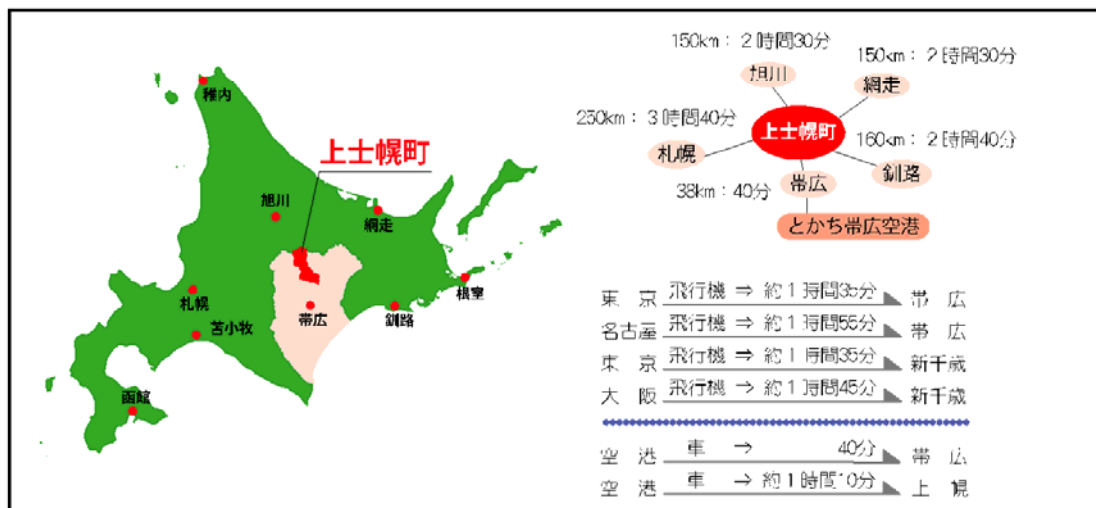
※二地域居住：今住んでいる場所以外に別の地域にも居住先を持ち生活をすることを言います。

上士幌町はどんな町？

北海道十勝管内北部に位置する上士幌町は、日本最大の国立公園である「大雪山国立公園」の東山麓に位置し、畑作と酪農が中心の町です。

町の約76%が山林で、大雪山系の山並み、糠平や幌加などの温泉、日本最大の公共育成牧場である「ナイタイ高原牧場」の他、スキー場、ゴルフ場があり、バルーンフェスティバルを行う熱気球の町でもあります。

また、北海道遺産に選定された旧国鉄士幌線アーチ橋梁群は、近年、道内外から多くの観光客が訪れ、豊富な地域資源の一つとなっています。



生活体験ツアー概要

本年度、アルプス技研グループ共済会と上士幌町が連携して、都市住民による上士幌町での生活体験ツアーを実施します。上士幌町では生活体験のための住居（必要最低限の生活備品付き）を用意し、社員の皆様の中から、将来北海道への移住に興味がある方を対象に生活体験者を受け入れます。将来の移住に向けた第一歩として、ぜひ活用してください。

- ・平成18年10月から平成19年2月末の期間の受け入れです。
- ・4泊5日から1週間程度の滞在を想定します。ご家族でご参加いただいても構いません。

※特に決まった日程はありませんので、ご自由に滞在期間を設定下さい。ただし、受け入れ側の都合により日程を変更していただく場合があります。

- ・上士幌町までの交通費及び滞在にかかる費用は一部補助しますので、必要交通費、滞在日数にかかわらず、一人2万5千円でご参加いただけます。ただし、費用の補助は生活体験ツアー終了後になるため、立て替えていただく必要があります。（領収書の取得をお願いします。）

■参加条件

- 1 将来、北海道への移住や二地域居住をお考えの道外在住の方。
- 2 簡単な日記の記入、アンケート調査、マスコミ取材等にご協力いただける方
- 3 ホームページへの日記及び写真掲載、調査データ等の活用に対する承諾をいただける方。
- 4 参加お申込み多数の場合、抽選で決めさせていただくことがあります。

■申し込み先

アルプス技研総務部（担当者：城平）まで郵送またはメールでお申し込み下さい。

不明な点についてもメール、電話等でご質問下さい。

住 所：〒229-1131 神奈川県相模原市西橋本5-4-12

電 話：042-774-3333

E-mail：shirohira@alpsgiken.co.jp



■こんな体験ができます

上士幌町には大自然や広大な風景のなかでの、のんびりとした健康的な生活があります。また、以下のような体験メニューが用意されていますので、ご希望にあわせて各種体験ができます。

名 称	内 容 ・ 金 額	実 施 時 期 所 要 時 間
廃線の国鉄士幌線アーチ橋見学ツアー	幻の橋タウシュベツ川橋梁を訪ねます 参加費/大人 2,600 円、小学生 1,500 円 (税込み)	4月29日～10月下旬予定 AM9～11、PM3～5
エコレール体験付きアーチ橋ツアー	タウシュベツ川橋梁などのアーチ橋を見学後、足こぎトロッコ、エコレールに乗車できます。大人 3,500 円 小学生 2,400 円 乳幼児 無料 (税込み)	10月31日(月)までの毎日 AM9～11、PM3～5
カヌー体験	初心者でも安心して乗れるカナディアンカヌーを用い、静水面(糠平湖)をスタッフの指導のもとカヌーをこぎます。大人(中学生以上)2,500 円 子供 2,000 円 (税込み)	10月まで AM7:00～8:15
リース作り教室	材料やデザインを工夫し、あなただけのオリジナルリースを作ってみましょう。参加費/2,100 円(材料費込み)	通年 随時 2～3 時間
森の香水作り～フレグランスウォーター作りに挑戦！	大雪山に多く自生する「トドマツ」という針葉樹の香りの水を作ってみましょう。 1,600 円	通年 随時 1.5～2 時間
ワカサギ釣り体験	<参加費> 大人 3,150 円、小学生 1,500 円 (税込み) (釣り具一式レンタル料、ガイド料込み)	1月予定 AM9～12
ネイチャースキー	歩くスキーを使って森の中を散歩しましょう！参加費/大人 ¥2,600 小学生/¥2,000 (税込み、歩くスキーレンタル料込み)	12月下旬～3月下旬 AM9～12
スノーシューハイク	スノーシュー(西洋かんじき)をはいて、ふわふわの雪の中へ飛び込みに行きましょう！参加費/大人 ¥2,600 小学生/¥2,000 (税込み、スノーシューレンタル料込み)	12月下旬～3月下旬 AM9～12
ゴルフ	上士幌ゴルフ場	11月上旬まで
パークゴルフ	料金無料。 用具も貸し出せます	11月上旬まで
湖・川釣り	糠平湖や音更川などでマス釣りが楽しめます	11月上旬まで
山菜きのこ採り	季節ごとに山菜やきのこ採りが楽しめます。	11月上旬まで
熱気球体験	熱気球体験搭乗 大人 1,000 円 小学生 700 円	5月上旬～10月上旬
航空知識学習及び、ヘリコプター体験操縦	上士幌町での移住生活体験期間中に、生涯学習として航空知識を学び、ヘリコプター体験操縦まで行うことができる体験メニューです。 講義 合計12時間、操縦 合計1時間(30分間 2回) 講義受講(教材資料を含む) 45,000円(消費税込) 体験操縦料 55,000円(消費税込) 合計 100,000円(消費税込)	4週間で講義から体験操縦まで
定住促進住宅地(みなみ野団地)を見学	役場ワンストップ窓口がご案内します	通年
スキー	パウダースノーをおもいきり楽しめます	12月下旬～3月下旬
温泉めぐり	糠平温泉や幌加温泉で源泉100%かけながしの温泉が楽しめます。日帰り入浴 500 円～700 円 湯めぐり手形(糠平温泉街の3軒の宿のお湯を楽しむ) 1,200 円	通年
健康体験	メディカルチェック、カウンセリング、講演会実施等	通年

※上記の体験料金は、通常料金です。今回の生活体験ツアーにあたっては体験料金変更の可能性があります。

■こんな滞在場所を用意しています。

～住宅かホテル旅館のいずれかをお選び下さい～

住居に滞在

○町内市街地及び農村地区の教職員住宅 3軒からお選び下さい。

※バス、トイレ付き（水洗あるいは簡易水洗）

○上士幌町が用意する生活備品

テレビ、布団、冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、食器類、ガス台、ストーブ（冬期）、カーテン、テーブル（インターネット環境、電話はありませんので、体験者ご自身の携帯電話等をご用意ください。）

○家賃は一組1ヶ月 35,000 円から 45,000 円（光熱水費含む）程度を予定しています。滞在日数に応じて日割り計算します。

ホテルや旅館、ペンションに滞在

○市街地及び糠平温泉（山間部）のホテル・旅館・ペンション 4館からお選び下さい。

○料金は一人一日 3,800～12,000 円を予定しています。

○食事の有無については要相談とします。

滞在用住居及びホテル・旅館・ペンション



01 教職員住宅2棟 （上士幌市街地） 	02 教職員住宅 （農村地区） 	03 民間企業社宅2棟 （上士幌市街地より2km） 	
04 さかた旅館（上士幌市街地） 1ヶ月単位 [11月～2月] 6,800円 [10月～3月] 4,800円 [11月～2月] 4,800円 [10月～3月] 3,800円 ※朝食はすべて消費税込み http://www.sakata-ryokuen.jp/	05 糠平路観光ホテル（糠平温泉街） 1ヶ月単位 [11月～2月] 10,500円 [10月～3月] 9,450円 [10月～3月] 9,450円 [10月～3月] 8,400円 [10月～3月] 8,400円 [10月～3月] 7,350円 ※朝食はすべて消費税込み ※上士幌市街地より15分程度あり、15分以内入浴が出来ます。 ※バス、トイレ、シャワーはすべて11:30～13:30 http://www.koromo-hotel.jp/	06 富士見観光ホテル中村屋（糠平温泉街） 1ヶ月単位 [11月～2月] 9,000円～12,000円 [10月～3月] 8,000円～11,000円 [10月～3月] 7,000円～10,000円 ※朝食はすべて消費税込み http://www.fujimi-hotel.jp/	07 ペンション森のふくろう（糠平温泉街） 1ヶ月単位 [11月～2月] 8,000円 [10月～3月] 7,000円 [10月～3月] 6,000円 ※朝食はすべて消費税込み ※バス、トイレ、シャワーはすべて11:30～13:30 ※貸室（5室）は、10人、15人 http://www.sorachi-no-fukurou.jp/

■移動手段について

○上士幌町までは、飛行機、フェリー、電車など、お好みの交通手段をお選び下さい。
交通手段は、ご自身で手配していただく必要があります。
(時間に余裕のある方は、フェリーを利用して自家用車を運ぶことをお勧めします。)

○町内のレンタカー業者を低料金で利用できます。

【利用料金】

・バンタイプ

月借り 月々40,000 円(税別)

日借り 1 日 2,000 円(税別)

・普通乗用タイプ

月借り 月々 55,000 円から 60,000 円くらい(要相談)

※レンタカー利用の際には、補助があります

(一組あたり上限 1 万円を補助します)

■相談窓口を用意しています。

○事前の問い合わせや相談及び、滞在期間中の各種問い合わせには、移住相談ワンストップ窓口(上士幌町役場企画課)が対応いたします。

○上士幌町へ到着後、町内のご案内などのオリエンテーションをさせていただきます。

○生活体験の詳細に関しましては、別途、お打合せをさせていただきます。

■上士幌町お問い合わせ先 移住相談ワンストップ窓口

担当者：北海道上士幌町役場企画課(担当：須田 修／深瀬一輝)

所在地：〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東 3 線 238 番地

電 話：01564-2-2111(内線 265、261) FAX：01564-2-4637

E-mail：kikakuka@town.kamishihoro.hokkaido.jp

上士幌町についての情報は以下のホームページからご確認ください。

上士幌町ホームページ

<http://www.kamishihoro.jp/>

上士幌町観光協会ホームページ

<http://www16.ocn.ne.jp/~k.kanko/>

ウ 冬メニュー紹介チラシ（アルプス技研用）

上士幌 冬メニューのご紹介



五の沢でのスノーシューハイク

その1 森の散策・・・スノーシューハイク

スノーシュー(西洋かんじき)をはいて、ふわふわの雪の中へ飛び込みに行きましょう！初めてだって全然平気です！大雪山の雪の森の中を、動物の足跡を追いかけたり、すてきな景色を眺めたりと、縦横にめぐる半日ツアーです。スキーは苦手だけど、冬の森に行ってみたいという人におすすめです。

(積雪状況によりコースは随時変更になります)

◆日程・・・ 12月下旬～4月上旬

◆参加費/大人¥2,600 小学生/¥2,000

(税込み、スノーシューレンタル料込み、ホットドリンク付)

◆時間/午前9時～12時 定員/14名

※参加費、時間等は変更する場合があります。

【NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター】



リース作り

その2 リース作り教室

リースと言うとクリスマスを思い浮かべますが、材料やデザインを工夫し、あなただけのオリジナルリースをつくりましょう。

- ◆日程/随時開催（最少催行 2 名以上） 定員/30 名
- ◆参加費/2,100 円（材料費/税込み）
- ◆時間/応相談（2～3 時間かかります）

※参加費、時間等に変更する場合があります。
【NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター】

その3 森の香水作り～フレグランスウォーター作りに挑戦！

大雪山に多く自生する「トドマツ」という針葉樹の香りの水を作りましょう。トドマツの葉を煮てその蒸留水を集め、手軽なアロマテラピーが楽しめます。作った水はビンに詰めて大雪山の森の香りのおみやげに・・・

- ◆日程/随時開催（最少催行 2 名以上） 定員/30 名
- ◆参加費/1,600 円（材料費・税込み）
- ◆時間/応相談（1 時間半ほどかかります）

※参加費、時間等に変更する場合があります。
【NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター】



早朝の糠平湖

その4 早朝ネイチャーウォッチング

大雪山国立公園に位置するここぬかびら周辺は、豊かな自然が楽しめる場所です。ぬかびら温泉では、みなさまにお気軽にこの自然を楽しんでもらおうと早朝ネイチャーウォッチング（早朝自然観察会）を催しています。ちょっと早起きをして、真っ白な大雪山系の景色を見ながら、おいしい空気を吸いに行きましょう！！十勝三股(約20k)というところまで車でいきます。

☆この時期のみどころは・・・

- ・真っ白で広大な大雪山系の大パノラマ！！
- ・北海道遺産の旧国鉄アーチ橋（第5音更川橋梁）見学！
- ・さらさら雪の中、動物の足跡など観察しながら歩きます
- ・この時季はダイヤモンドダストが見える可能性・大！！
- ・運が良ければ？極寒の寒さ体験ができるかも...

◆ツアー時間/午前 6 時 ～ 7 時 10 分（約 1 時間 10 分）

◆参加費 /1,500 円

※注意/早朝は-20℃前後まで冷え込みますので暖かな服装でご参加下さい。

※参加費、時間等は変更する場合があります。

【NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター】



糠平湖でのワカサギ釣り

その5 ワカサギ釣り体験

ぬかびら湖・冬の風物詩ワカサギ釣りの体験です。アイスフィッシングとも呼ばれるこの釣りは、厚さ50センチを超える氷に穴をあけて釣りをします。湖上から仰ぐ景色も別天地で、それだけでも楽しいものです。スタッフがポイントから釣り方まで案内しますので、初めてでもOKです。寒さ除けの釣り用テントや、ポータブルトイレとテントを設置しますので、女性でも安心して参加できます。

- ◆日程/予定です・・・ 2007年 1月2日～3月11日（氷の状況で変更あり）
- ◆参加費/大人 3,150 円、小学生 1,500 円（釣り具一式レンタル料、ガイド料込み）
- ◆時間/午前9時～12時
- ◆定員/14名（これ以上の団体様はご相談ください。）

※参加費、時間等に変更する場合があります。

【NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター】



その6 湖上横断！タウシュベツ橋スノーシューツアー

真冬のタウシュベツ橋の見学ツアーです。スノーシューを用い、氷結した糠平湖上を歩いて行きます。雪と氷の中にたたずむアーチ橋は儼かな芸術品です。アーチ橋に触れるほど近くで見られるのも、この時期ならではの。冬の森の様子や、湖上から眺める大雪山の山々も素晴らしい風景です。歩行は往復約4キロありますので、ちょっとした雪上ハイキングとなります。

◆時間/ 午前9時～12時30分

◆参加費/大人 3,500 円（中学生以上参加可能）スノーシュレンタル料込み

◆定員/14 名

※冬ウェアレンタルもあります（有料）

※参加費、時間等に変更する場合があります。

【NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター】



糠平スキー場

その7 スキー（糠平スキー場）

雄大な東大雪の秀峰と糠平湖の眺望。粉雪と温泉、2つの魅力を存分に。良質の雪に恵まれ、山頂からは東大雪の秀峰を望める、大雪山国立公園にあるスキー場です。4人乗り高速リフト3本とロマンスリフト1本を備え、トド松・エゾ松をぬって滑る変化に富んだ林間コースはどなたにも快適な滑りを満喫していただけます。グレンデはベストコンディション！抜群の晴天率に加え、今年の雪は量・質ともに申し分なしです。最高のコンディションでスキー・スノーボードをお楽しみください。

◆料金

・午前券（営業開始～13：00）	おとな ￥2,200	こども・シニア ￥1,500
・午後券（12：00～日没または17：00）	おとな ￥2,200	こども・シニア ￥1,500
・1日券（営業開始～日没または17：00）	おとな ￥3,000	こども・シニア ￥2,300
・昼間券（10：00～14：00）	おとな ￥2,200	こども・シニア ￥1,500

※上記の他にもお得料金設定があります。

詳しくは糠平スキー場ホームページ

URL：<http://www.princehotels.co.jp/ski/nukabira/index.html>



糠平スキー場から見た糠平湖



その8 ウィンターバルーンミーティング（体験搭乗も）

大空に夢が舞う北の大地『上士幌』は日一日と寒さが増し、厳しい冬を迎えようとしています。今年も青い空と白い大地を舞台に『第25回上士幌ウィンターバルーンミーティング』を下記により開催することとなりました。「熱気球のふるさと上士幌」が、皆様のお越しを心からお待ちしています。

- ◆日 程 2007年2月10日(土)～2月11日(日) 2日間
- ◆場 所 上士幌町航空公園周辺
- ◆大会内容

2月10日(土)	5:30～6:00	エントリー受付（山村開発センター）
	6:00～6:30	ゼネラルブリーフィング（山村開発センター大ホール）
	7:00～8:00	タスクブリーフィング（上士幌町航空公園）
	8:00～15:00	タスクフライト（オープンターゲット/賞金レース）
	17:30～	交流パーティー/タスク表彰（金亀亭）
2月11日(日)	7:00～8:00	タスクブリーフィング
	8:00～12:00	タスクフライト（オープンターゲット/賞金レース）
	13:00	タスク表彰（航空公園）

※タスク＝競技

詳しくは上士幌町ホームページ URL:<http://www.kamishihoro.jp/index.php>

エ 申込用紙、アンケート用紙

～都市と農山漁村の新たな共生・対流システムモデル調査～

北海道上士幌町 生活体験モニター

申し込み用紙

申し込み者氏名・年齢	(歳)
同行者氏名・年齢	(歳) (歳) (歳)
ご住所	〒
電話番号	
携帯番号	
メールアドレス	
口座番号 ※補助金の振込のため	_____ 銀行 _____ 支店 口座番号： _____
希望する日程	月 日 ～ 月 日 (計 日間)
希望する滞在施設 (お選び下さい)	1. 教職員住宅（市街地） 2. 教職員住宅（農村地区） 3. 民間企業社宅（市街地郊外） 4. さかた旅館 5. 糠平館観光ホテル 6. 富士見観光ホテル中村屋 7. ペンション森のふくろう 8. 検討中
希望する体験メニュー (ご記入下さい)	
使用する交通手段 (お選び下さい)	1. 航空機（経路 ～ ） 2. フェリー+自家用車（経路 ～ ） 3. その他（ 経路 ～ ） 4. 検討中
レンタカー利用 (お選び下さい)	1. 希望する 2. 希望しない 3. 検討中

北海道上士幌町 生活体験モニター 事前アンケート

この事前アンケートは、生活体験モニター実施にあたり、皆様がどのような意向をお持ちなのか伺うためのアンケートです。皆様の現在のお考えをお答え下さい。

※参加を希望される方は、必ずお答え下さい。なお記入されたアンケートは、申込書と一緒に、上士幌町移住相談ワンストップ窓口（アンケートの最後に送付先を記載）までお送り下さい。

○ 今回の生活体験について伺います。

問1 今回の生活体験に参加を希望される理由は何ですか。

例) 北海道への移住を漠然と考えており、北海道の気候風土などを一度体験してみたかった。
移住については現実のものとは考えてなかったが、せっかくの機会なので。

問2 滞在期間中、どのような日々を送ってみたいですか。

例) おもいきりアウトドアを楽しみたい。のんびり読書などして暮らしたい。
上士幌町を基点に北海道を周遊したい。

問3 今回の生活体験に参加するにあたり心配なことがあれば教えてください。

問4 今回の生活体験は、都市と農山漁村の交流の取り組みですが、今後、国や上士幌町、
(株)パルアクティブに何か期待する施策がありましたらお書き下さい。

○ 移住の意向について伺います。

問5 現時点で移住をどの程度考えていますか。あてはまるものをお選び下さい。

- 1 北海道への移住を検討している
- 2 北海道以外の府県への移住を検討している
- 3 興味はあるが、現実のものとしてはまだ考えられない。
- 4 その他

)

問6 どのようなかたちでの移住を考えていますか。あてはまるものをお選び下さい。

- 1 完全移住
2 期間限定移住（期間： ）
3 季節限定移住（季節： ）
4 その他

)

問7 実際に移住する場合、どのような制約や不安、問題点がありますか。

問8 移住先を選ぶ際に、どのような点を気にしますか。

例) 広い住居、安い土地が入手できること、豊かな自然環境や農地環境があること、温暖な気候であること、まちの人たちの対応が親切であること、仕事が得られること

○最後に

問9 最後に、今回の生活体験モニターに期待することや、移住施策に関する要望などを自由にお書きください。

問10 今回の生活体験の全般にわたって、上士幌町役場の「移住相談ワンストップ窓口」が、体験メニューの申込窓口や生活情報の提供、困ったことへの対応等をいたします。「移住相談ワンストップ窓口」に期待することは何かありますか。

■送付先

本アンケートについて、ご不明な点は以下にお問い合わせ下さい。

担当者：北海道上士幌町役場企画課（担当：須田 修／深瀬一輝）

所在地：〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線238番地

電話：01564-2-2111（内線265、261） FAX：01564-2-4637

E-mail：kikakuka@town.kamishihoro.hokkaido.jp

～都市と農山漁村の共生・対流を進めるための生活体験モニター～

北海道上士幌町 生活体験モニター 事後アンケート

このたびは、上士幌町生活体験モニターに参加頂き、ありがとう御座いました。

この事後アンケートは、生活体験モニターに参加された皆様に対して、満足度や、上士幌町についてのご意見、将来の移住についてのお考えを伺うためのアンケートです。生活体験を終えられた現在の、皆様のお考えをお答え下さい。

なお、このアンケートは体験された方、お一人ずつお答え下さい。ご協力お願いします。

※アンケートの結果は、今回の生活体験事業の評価や上士幌町の移住・二地域居住施策の参考にさせていただき、上士幌町ホームページ等に掲載する場合がありますが、その際には氏名は伏せて利用させていただきますので、ご了承下さい。

氏名		
住所		
	都道府県	市区町村
年齢	歳	

問 1 今回の生活体験について伺います。

■今回の生活体験に満足していただけましたか。以下からお選び下さい。

- 1.非常に満足 2.やや満足 3.どちらでもない 4.やや不満 5.不満

■今回のような生活体験に、また参加したいですか。以下からお選び下さい。

- 1.ぜひ参加したい 2.参加したい 3.どちらでもない 4.あまり参加したくない 5.もう参加しない

問2 今回ご利用になった住居（ホテル・旅館）について伺います。

■今回ご利用になった住居（ホテル・旅館）での滞在は、いかがでしたか。

1.非常に満足 2.やや満足 3.どちらでもない 4.やや不満 5.不満

【良かった点】（例 料金が安くてよかった、部屋からの景色が良かった など）

--

【良くなかった点】（例 部屋がせまかった、雰囲気なかった など）

--

■住居（ホテル・旅館）の家賃（宿泊料金）についてどう思いますか。

1.非常に安い 2.やや安い 3.どちらでもない 4.やや高い 5.非常に高い

■今後、体験滞在する際には、どのような形態の住居を希望しますか。

1.一戸建て 2.マンション・アパート 3.ホテル・旅館 4.コテージ
5.その他（ ）

■その他、住居に関して何かご意見や感想がございましたらお答え下さい。

--

問4 食事について伺います。

■体験中の食事（自炊、旅館の食事、外食含む）は、いかがでしたか。

- 1.非常に満足 2.やや満足 3.どちらでもない 4.やや不満 5.不満

【良かった点】（気に入ったメニューや店など理由もあわせてお書き下さい。）

【良くなかった点】（理由もあわせてお書き下さい。）

■体験中にどのくらいの頻度で外食をしましたか。また、頻度と外食先の店やメニューをお答え下さい。

- 1.毎食外食だった 2.一日に1回程度 3.数日に1回程度 4.ほとんど外食していない
5.全く外食していない

【店・メニュー】

■その他、今後体験滞在する際に希望する食事メニューなど、食事に関して何かご意見や感想がございましたらお答え下さい。

問 5 交通手段について伺います。

■ご自宅から上士幌町までの移動についての感想をお答え下さい。

(例 想像していたよりも近く感じた、空港から遠いので不便を感じた)

■上士幌町内での交通手段と、ご利用になった感想をお答え下さい。

【ご利用の交通手段：】

【感想：】

【ご利用の交通手段：】

【感想：】

■その他、交通手段に関して何かご意見や感想がございましたらお答え下さい。

問 6 ワンストップ窓口（上士幌町役場）について伺います。

■ワンストップ窓口での対応についての感想をお答え下さい。

--

■その他、ワンストップ窓口に関して、希望するサービスなど何かご意見や感想がございましたらお答え下さい。

--

問 7 情報について伺います。

■今回、生活体験モニターを通して、事前に知ることができなかったことについて、どのようなことを知ることができましたか。

（例 町の雰囲気や自然環境の豊かさ、町での楽しみを知ることができた、不動産情報や商店の情報など実際の生活をイメージするための情報を得られた など）

--

■今後、どのような情報を希望しますか。

--

問 8 その他

■今回の生活体験モニターを通して、地元の人と知り合う機会がありましたか。

1. 知り合いができた 2. 知り合えなかった

■知り合いができたとお答えの方は、知り合ったきっかけや、交流の内容、地元の方の印象などをお答え下さい。

■今回の生活体験モニターにかかった費用は、旅費（交通費、住居費）以外でおおよそいくらかかりましたか。概算で構いませんのでお答え下さい。

【食事】	(	千円)
【お土産】	(	千円)
【体験メニュー】	(	千円)
【その他】(内容	) (	千円)

問9 移住・二地域居住の意向について伺います。

■今回の生活体験モニターを終えて、上士幌町への移住・二地域居住したい思いを持ちましたか。

1. 上士幌町へ移住又は二地域居住を考えている
2. 他の町や地域へ移住や二地域居住を考えている

(希望する町・地域)

3. 移住や二地域居住は考えていない

(理由)

■あると答えた方は、時期はいつ頃を考えますか。あてはまるものをお選び下さい。

1. 一年以内
2. 一～三年のうち
3. 三～五年のうち
4. 五年以上先
5. 未定

■あると答えた方は、どのような形での移住・二地域居住を考えますか。あてはまるものをお選び下さい。

1. 完全移住
2. 期間限定移住（期間： ）
3. 季節限定移住（季節： ）
4. その他（ ）

■実際に移住・二地域居住する場合、どのような制約や不安、問題点がありますか。

■移住・二地域居住先を選ぶ際に、どのような点を気にしますか。

（例 広い住居、安い土地が入手できること、豊かな自然環境や農地環境があること、温暖な気候であること、まちの人たちの対応が親切であること、仕事を得られることなど）

問 10 最後に

■今回の体験モニターや上士幌町の印象、移住施策についてなど、何かご意見や感想をご記入ください。

ご協力、誠にありがとうございました。

■本アンケートについて、ご不明な点は以下にお問い合わせ下さい。

担当者：北海道上士幌町役場企画課（担当：須田 修／深瀬一輝）

所在地：〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東 3 線 238 番地

電 話：01564-2-2111（内線 265、261） FAX：01564-2-4637

E-mail：kikakuka@town.kamishihoro.hokkaido.jp